



▲オオバナミズキンバイ。花期 ('13.8.7, 守山市)  
〔村長昭義〕



▲オオバナミズキンバイ。花 ('13.8.7, 守山市)  
〔村長昭義〕



▲オオバナミズキンバイ ('13.9.29, 守山市)

## オオバナミズキンバイ (広義)

[アカバナ科]

*Ludwigia grandiflora* (Michx.) Greuter et Burdet.(s. lato)

(E) large-flower primrose-willow ;  
large water primrose

南アメリカおよび北アメリカ南部原産で、ヨーロッパ各地に帰化し侵略的水草となっている多年生草本。本種の葉形は生育段階や状況により大きく変化する。越冬期や、それに次ぐ初期成長の時期、あるいは水中では茎、葉ともに無毛で、円形の沈水あるいは浮葉を着ける。葉は互生し、茎頂部では節間がつまりロゼット状に葉を着ける。浮遊状態では、オオバナミズキンバイの走出枝は無毛で、葉は長さ9cmほどのひ針形～楕円形となる。陸生状態で生育した茎や水上茎は有毛で、密生した開出軟毛で覆われるが、中には毛の少

ないもの(滋賀県産)、無毛のもの(鹿児島県産)があり、後者はウスゲオオバナミズキンバイ(subsp. *hexapetala* (Hook. et Arn.) Neson et Kartesz) として区別される。気中葉は楕円形～長倒ひ針形で、葉縁に細毛、裏面や脈上には軟毛がある。葉身基部はくさび形で、茎上部の葉では柄はほとんどない。葉柄基部には褐色の小さな楕円形の托葉がある。7～10月、陸生状態で生育した茎や水上茎に着花し、花は鮮橙黄色で直径約3～4cm、花弁、ガク片はともに5枚である。滋賀県下では、冬期、植物体の大半が低温で枯死し、生き残った茎断片から生育を始める。わが国では、2007年に兵庫県加西市の溜池で初めて生育が確認され、滋賀、和歌山両県に定着し、特定外来生物に指定されている。

(植村修二)

[分布情報] 滋賀, 兵庫, 和歌山, 鹿児島